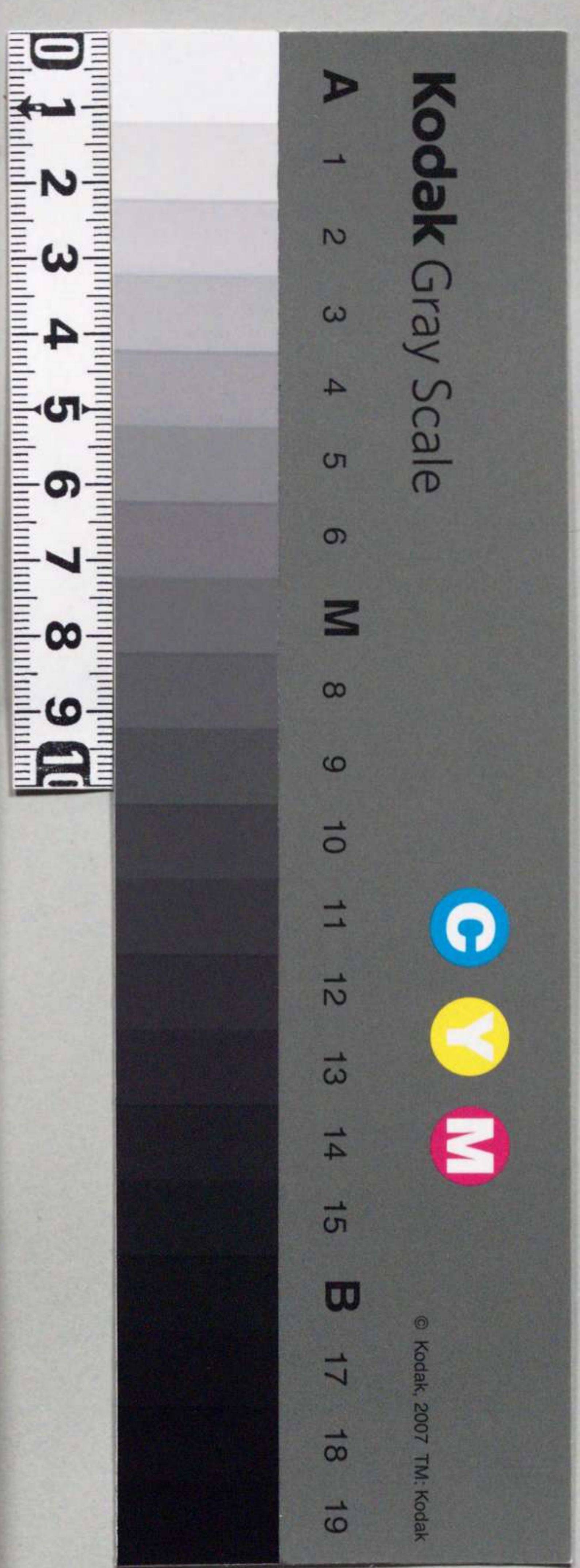


寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内武田流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (44)		
函號	76	1	





松

寛永諸家系圖傳

清和源氏

義光流

武田流

松

庚八

淺草文庫

先祖蛸崎此称号よりらむと
とも志摩守公廣時よりらむと
らるゝありて松ありと号す又武田此氏
族といふよりハじり夷此千鶴よ

位正りとのと和多利黨と号すは
時松ありより東亦日海あり亦日海
人宅民家ありとととも夷蜂起
して志法此城之主即左衛門箱殿
此城之主賀守松前此城之主相原
因防守より可く此城郭とせあり
とととも下此城之主茂利治初太
物上此城之主野崎修理太夫は二
人たを堅固一城とすも川て是よ

座すうの折若若列武田大膳太夫
因信此嫡男太即信廣父と不和の
事ありて若列とを去り高人此
舟よりありねありとととも座すは時
夷又蜂起して下此上此此城と
せありとととも時よ信廣を去りて
よりより武志を去りて物と夷の
渠魁二人と討より賊徒数輩と
よりありと是よりよりて凶徒とく

く殿走すうのころ治部右衛門下
よりとよふころ會合し酒宴
のとき修理右衛門末國後の刀を
信廣よりと治部右衛門一文字の
刀と信廣よりけてこれ勇功と賞
寸修理右衛門女子より男子を
ある女子と信廣より嫁せしめ家
督と寸是より信廣より武田の氏族と称
せりとのなり

新羅之郎義光四代

信義

武田大郎

源右衛門下

大膳右衛門

信光

也郎

伊豆守

法名光遠

安藝守のちの後

信時 のぶとき

伊豆守

治部少輔

時綱 ときつな

伊豆守

彈正少弼 だんしょうすけ

信政 のぶまさ

小五郎

信宗 のぶむね

孫六郎

伊豆守

安藝守 あきののり
此守 このり
後 のち

信茂 のぶしげ

美六郎

伊豆守

陰謀守 いんぼうのり

出陣 しゅんじん
此守 このり
後 のち

甲斐守 かいのり

甲斐此守 かいこのり
後 のち

九郎 くわに

此守 このり
後 のち

右軍 みぎぐん
守 のり
長 なが
弼 すけ
少 すく
輔 すけ

康永四年 かうえいしよんねん
天龍寺 てんりゆうじ
信養 のぶやしやう
の の
時 とき
共 ども
と

たの

氏信 しん

後、信賴と、しん 伊豆守 刑部大輔 しん

甲斐守の守護 しん

鹿苑院殿 しん

信在 しん

伊豆守 陸奥守 刑部大輔

信守 しん

伊豆守 治部少輔

子、しん 依、家督と、しん 伊豆守、しん 守護

信繁 しん

伊豆守 治部少輔

播磨守 廣院殿 しん

信采

長九郎 治幼少坊 善別此身獲
普廣院殿よ沈よ
子なりこよ依之家督と才信賢よゆづる

信賢

大膳大吏 信興寺
支雲院殿慈照院殿よ沈よ
子なりこよ又家督と才國信よゆづる

國信

法名宗茂 大通寺と号す

長太郎 大膳大吏 治幼少坊
慈照院殿常法院殿よ沈よ
法名宗勲 玉華寺と号す

信廣

治幼少坊 善別此身獲
子なりこよ依之家督と才信賢よゆづる
号す 生由若使

駒崎修理大夫がむじとよと娶とく此
家と流ぐよより駒崎社と号とめらる
其事治松あり是号此下よ刃とる
上玉の鍬北門よおぬく氏神正八幡大
菩薩社と建とす
七十八年少く死す

光廣

宮門廿猫 善授守 流よ判發一て

泰光と号す 松ありよりまら
永正十五年 上玉と河とあて相原因
防ちが古城よりけり

同十六年五月庚戌賊徒蜂起寸光廣
とありしを以て賊徒北陸本人と號め
うらまひの酒とすめ奥とめよ
か一寶物とて見せしめられしめ
寶物とて河とあて見せしめられしめ
ありす伴此の父信廣よ修理大夫が

阿久戸一 本國後なり先よりいふ家
室寶寺

同年大鼓北門よりおのく氏神八幡宮
と建立す又地蔵山北麓洲崎より山王
堂とす 五十九歳少く死す

義廣

民部右衛門 後利發して正忠と号す
松あよりいり

或夜夷ひりり城お北柵の際より
て鼓れりり其あいらんとす義廣是と
察してりりり数人と射りり先よ
依り城後夜中よりにげりり

大永七年阿畔寺と建立して新形取
寺又天神社なりびり羽黒堂とた
つま後家督と嫡子季廣よりつりて

義廣八間居す

享祿二年五月二十五日此夜大り雨

少の夷^{うし}事^{こと}を義^ぎ廣^{ひろ}が隠^{かく}居^い此^{こゝ}地^ち洲^{しゅう}崎^{さき}此^{こゝ}嶺^ね
とうむんとしてひうるは洲^{しゅう}崎^{さき}下の橋^{はし}
ともつる義^ぎ廣^{ひろ}をとおとさういふくは此^{こゝ}と
うむひく討^うけも夷^{うし}うる事^{こと}を討^うす
夜^よ明けく先^{まへ}を先^{まへ}まはうの矢^や賊^{ぞく}此^{こゝ}左^{ひだり}
此^{こゝ}肩^{かた}よりうを此^{こゝ}腰^{こし}よりうをうし
者^{もの}よたらく羽^はうらうとのむ先^{まへ}義^ぎ廣^{ひろ}が
う場^ば人^{ひと}よ正^{ただ}らまて壯^{さかん}年^{ねん}此^{こゝ}時^{とき}より此^{こゝ}
よ之人^{ひと}張^はめうとひくゆわう

六十七年少く死す以^{もつ}幢^{じょう}寺^{てい}と号す

季^{しき}廣^{ひろ}

若^{わか}狭^{せう}寺^{てい} 後^{のち}に利^り賢^{けん}して永^{とこ}安^{やす}と号す
松^{まつ}前^{まへ}よりうらう

天文^{てんぶん}此^{こゝ}初^{はつめ}季^{しき}廣^{ひろ}を夜^よにとけり
ことめらうして東^{あづま}あは夷^{うし}のう限^{かぎ}り
あつひひく金^{かね}銀^{ぎん}重^{おも}寶^{たから}をうる人^{ひと}和^わ儀^ぎと
うのうと中^{なかつ}此^{こゝ}駭^{こわ}礼^{らい}と志^{こころ}づいひ時^{とき}世^よ

多内此也波志多院と云く西夷此等
行と志利字知此也知古茂多院と
云く東夷此等行と云く西夷此等
商人の法度と云く是先も依て持持等
と云二人此也云云云云件持持等法
云云夷へ波来と云商人云先と出寸
持へ先と夷役といふ云云季廣が持
云云

同七年大破此色境よおわく是宿山

権現の社と建と寸 七十之歳少く死寸

寺ノ廣

民部右衛門 志摩守 伊豆守

従之位下 後よ利繁して永泉と号寸

松あよりまゐり

天正十六年四月十日豊后赤松と号

して秀吉此命より志摩守と云く

文禄元年秀吉朝鮮と云く

肥前名護屋肥前名護屋に教向教向れ此を廣是よ
あつてひく名護屋といふより志づらくは
てゆす

同三年八月秀吉秀吉を廣に命じて夷
一國をひく相おと知す相おと知すなる此常
とくまふ中よ此つと流玉より夷へ渡
海より高船を廣が下知よあつてふ
善法よりしりものりるを玉よりふけ
て謀す謀するにこれしよとのす又津輕より

北をひく一橋大坂よりあつて人使傳
る此常中よとくまふ先又秀吉が多年
とつて夷とあつてしりゆなり
又も九年

東照大権現と相一なり

同三年相お此境内少く要害此地と
えつて初く新城とよけく同十一年
八月よいふく造畢す造畢す此地と名づけ
福山といふ

同十四年

大指現此位より依く従上位下より叙し修定す
又叙す

同年 御継因此沙来市二通と以敷寸
以時又清輕より南勢仙臺秋田酒田由
利仙北取上等よりいりく人支傳子此奉
御来市此又云よの世く先と大まう
宇須此普光寺と建立寸

元和四年十月十二日孔寸七十之奉

舞廣

宮内

政廣

右清門

元廣

万五郎

定廣

玄蕃

信廣 のぶひろ

他子 たご

吉廣 よしかひろ

北右衛門

忠廣 ただひろ

右衛門

京廣 きやうひろ

主水 ぬすみづ

利廣 りひろ

右衛門

先右衛門政廣が養子となりて家と

つぐ

女子六人

つとねおよりまゝり

盛廣 もりひろ

甚五郎

淀五郎下

善後守

松ありよりあり

寛文九年父文廣と同時

大権現と稱し有り時ハ虎皮の板をくびよ

黄金五十兩と感廣よたし

同八年

大権現此命ハ依て流し位下ハ叙し後授

ハ任寸感廣流し位下ハ叙し事父文

廣よりありありあり

同年

大権現征夷大将軍ハ仰ぐ言ふ時感廣

御前内此侍奉と勤じ

寛文十二年正月二十一日死寸年之十七

法名月満宗圓

行廣

長門

次廣

侍中郎

種廣 たねひろ

數馬 かずま

等廣 とうひろ

伴豫 いはよ

政廣 せいひろ

市正 いちのち

滿廣 まんひろ

長次郎

女子二人

以上松前より

云廣 いんひろ

甚五郎

松前志摩守 まつまへしもの

從五位下 おろごかげ

松前より

安永十八年云廣十六歳あり

酒院殿と稱し、その時、從五位下と叙 さ

し、志摩守に任ぜしは、松前と

何々

同年继因此河朱戸と以裁寸

元和六年

右德院殿黄金百枚と云廣よらまふま

松前此金山と持取寸七升大炊以利得

青山伯耆守忠俊是とつけまらる

釣命此し〇と云廣よはぐ云廣忠顧此

わづつけたる事と相寸

寛永九年

右德院殿豊清此河遺物として銀子

之小取と相取寸と相寸

右軍家よはくまら 河入活の修年と

勤心

同十四年一月廿八日云廣が居城炎上寸

時より此火鉄炮此茶の中より入る端

四方より散る地へ云廣炎燼よりまき

数ヶ所此火と相寸

同十七年六月十三日云廣より龜河迄

津波りりて人家とくくたぶらふは
古民をくびよ夷等五百餘人おろし死す
同日内浦に嶽突として主屋を空
みらふさざりて十日の己此別より十日
此年の別よりろく玉中園取れ
同十八年七月八日卒寸年四十四
法名大禪宗愚

兼廣

右共清 松前よりくる 二世

氏廣

辨之物 生不因あ

寛永十六年十一月十三日

將軍家より賜しをり時より氏廣十六歳

同十八年十二月十五日 釣合より依く

父が家督と決ぐ

同十九年三月三日 沖崎とたまらう

由玉寸おより祀父感廣時より沖崎

とたまひつらとらよ金銀呉服等可まき
領寸逐一よ先とあらふ守又毎年津
師相あよ下向の時呉服二十領と相
寸相あよりよ又毎年此去秋よ津
と秋寸

泰廣

甚十郎 生亦よ同

寛永十六年十一月十三日先氏廣と同

將軍家と相一守の時泰廣十五歳

同十九年之月先氏廣よ代く江戸よ
糸勤寸

徳廣

甚之郎 生亦同

幸廣

石丸 生亦同

女子

女子

女子 女子 女子

己上河内よきら

家級割麦

